

# 参画型イベントで、若者を地域活動に巻き込む

活動地域（福井県小浜市）

## 男性のプロフィール

氏名：柴田 淳史さん

年齢層：若年層（20～30 歳代）

活動概要：公民館活動の一環として平成 22 年 4 月に地区の若者を集め、今富青年会「楽郷」を立ち上げる。ペットボトルツリーの作成など、年間を通して様々な活動を展開。26 歳。

## 活動開始のきっかけ

### 若者世代の地域活動の参加の低さに危機感

今から 3 年ほど前、私は地元の公民館（今富公民館）に勤務しており、職員同士で、若年層が公民館を利用する機会を増やせないかと話し合うことができました。30 歳以上になると世帯を持つようになり、子どもとの関係から公民館を利用する頻度が増えてくるのですが、自分と同世代の 20 歳代はほとんど公民館を利用することがありませんでした。若年層が公民館を利用する機会を作るために、「講座」などを考えたのですが、実現には至りませんでした。

この職場での話し合いをきっかけに、「自分に何かできないだろうか」と日頃から考えるようになりました。ただ、1 人で考えていてもアイデアは膨らみません。同級生の知人男性に声をかけて、2 人で、若者を巻き込む地域活動を実現するための対策を練りました。特に、我々が不安を感じていたのは、若い世代が高齢者になったとき、今の高齢者の方々が行っているような子どもの送り迎えボランティアなど、地域貢献のための活動ができるだろうか、ということでした。若い世代が高齢者になった時に、助け合いのできない地域になって困るのは自分たちです。その時に備えて、今のうちから若者が団結して取り組めるような活動を作って、地域を守る人づくりをしたいという思いがありました。

色々考えた結果、若年層を地域に引き出すためには、若者中心の組織を作って、その組織を介して具体的な活動を実践していくのが効果的ではないかと考え、今富青年会「楽郷」を立ち上げることを決めました。大学や就職を機に県外に出る人が多いので、メンバー集めには苦労しましたが、何とか 10 名程度を集めて平成 22 年 4 月に発足が実現。「楽郷」としての地域活動が始まりました。

## 活動の内容

### 若者を始め、住民たちと一緒に作り上げるイベントを企画・運営

今富青年会「楽郷」のモットーは、「自分たちがやりたいこと、楽しいことをやろう」です。他県の地域活動の先進事例をインターネットで収集して、我が地域でできることを探しました。そこで見つけたものの一つが、ペットボトルツリーでした。

若者を中心に、お年寄りや日頃公民館を利用される方々に呼びかけて、地域総動員で約 3 ヶ月をかけて、ペットボトルツリーを製作します。例年、総勢 150 名を超える方々の協力が得られています。ペットボトル集めから洗浄、そして 6m の鉄柱に三角錐状にしたペットボトル 3,000～5,000 本を取り付けて飾る作業を住民の手で行います。

田んぼアートなどのイベントも年に数回開催しています。



## 周囲の支援が心の支えに

活動を始めたころは不安ばかりで失敗もありましたが、その都度、公民館の手助けが得られたので、恵まれた環境で活動が進めてこれたと感じています。

活動をしようと思った時、一人では困難を乗り越えないことが多いと思います。そんなとき、自分が信頼できる誰かと一緒に始めてみると、思いのほかうまくいくということが、自分自身の経験からも実感できました。職場や友人に頼って、助けてもらったり、アドバイスをもらったりしながら活動にチャレンジしてみると、大半のことは成し遂げられるのではないかと思います。

### 周囲との関わり

#### 友人、公民館の協力があってこそ地域活動ができた

「楽郷」の立ち上げ時から、ともに活動に取り組んできた友人の存在は非常に大きいです。

また、公民館からも、イベント企画時のアドバイスやイベント開催時の人集めなど、数多くの支援・協力をいただきました。当初、イベントを企画していたとき、我々は他県で行われている芸術性の高いペットボトルツリーや田んぼアートに憧れを抱き、それを当地区に、そのままあてはめようとしていました。しかし、経験不足や環境の違いなどから思うように進めることができず、悩んだ時期がありました。そのような時、公民館の館長や職員から、「大きな目標を立てるのはいいけれど、いきなりは無理で、物事を前に進めるには順序がある。1年、1年と活動を継続するたびに、どんどん良くなっていけばいい」とのアドバイスをもらいました。こうしたアドバイスは我々にとって貴重で、励みにもなりました。

### 直面した課題と解決方法

#### 転職により活動継続が困難に。しかし、公民館が全面的にサポート

私は昨年、公民館を退職し、異なる業種に転職しました。仕事との両立が難しく、従来のように密に地域活動に関わることが難しくなってきました。また、「楽郷」のメンバーとも定期的に話し合う機会が少なくなりつつありました。

このため、「楽郷」がこれまで実行してきたペットボトルツリーなどのイベントの継続が危ぶまれたのですが、公民館が、公民館活動の一環としてイベントを続けてくれました。私たちも事前準備や当日の運営などで参加はしたのですが、ペットボトルツリーを例年通り開催できたのは、公民館の全面的なサポートがあってこそと感謝しています。

### これからの展望

#### 地域活動に参加する若者を増やしたい

平成 23 年度は「楽郷」の活動を十分行えなかったと反省しています。このため、新年度早々、メンバーで集まり、これからのプランを練りたいと考えています。特に、これまでなかなか実現できなかった「若者だけのスポーツ大会」などを形にしていきたいと考えています。

活動を進めてきて感じるのは、地域の中に飛び込んで活動を実践する中で、幅広い年代の方々に自分の存在を知ってもらえるようになったことです。これにより、地域の方が若者を必要とする場面で、「この前、柴田君と一緒にいたあの若者も誘って、うちの行事を手伝ってくれないか」という感じで私に声がかかるようになりました。そして、実際に自分以外の若者が地域の行事を手伝っている光景をよく目にするようになりました。若者の地域活動への参加が増えつつあるのは、活動の成果の一つであると思います。今後も、地域のために、地域活動に参加する若者をさらに増やしていきたいと思っています。